Ⅰ　令和６年度　事業計画

１．基本方針

コロナ禍が明けたと言える日常が戻って来たと感じ始めた直後の元旦の能登半島地震は、当たり前のように享受していた平和と安全が、実は一瞬一瞬の奇跡の連続であるということを思い知らされる出来事となった。

当協会の活動は、今年に入り啓発活動に出かける機会が増え、見学会もコロナ禍前に戻った。そして次回の介助犬フェスタは５年ぶりに対面のみの開催を予定している。以前の形と同じことは出来ないことを肝に銘じての開催となると考え、新たなる取り組みとしていきたい。

コロナ禍では、5年以上検討し続けたまま導入が出来なかったリモートワークを導入、職員の働き方改革も、社会に合わせた以上に独自の取り組みとして、社会保険労務士としての小寺常務の専門性を活かし、職員個々の自律性を重んじ、育てるべく、1）副業・兼業を可能とし、2）フレックス制を導入、3）短時間正職員制度を開始、部長制度を、「ボスからマネージャーへ」の概念のもと、4）部からチームへ、部長からマネージャーへと変革し、小寺常務、水上ジェネラルマネージャーそして遠藤センター長の新たなるリーダー制を構築した。時間がかかったが、導入してみれば、全ての制度を活用し、自らの発展・変革に有効に活用する職員の姿があることは喜ばしい限りである。

3年待ったADI認可について、9月にクロアチアで開催されたADIカンファレンスでは、当協会の認可についてひときわ多くの喝采を頂き、参加者全員が浴衣で世界的ネットワーキングのアピールをした効果もあり、候補犬導入についてのオファーも頂いた快挙の報告もあった。早速に繁殖チームの橋本マネージャーをイギリスの繁殖センター他へ派遣することが決まっており、これを契機に欧米との密なる人事交流が進むように努力していきたい。

Dog Intervention、With Youプロジェクトへの社会的評価とニーズの高まりは目を見張るものがあり、介助犬事業以外の定義づけ等の整備はまったなしでの検討が必要と考えている。

来年度から5年ぶりの研修生制度も新たなる形で再開、当会の活動と人と犬をつなぐ事業が継続し、発展し続けるために、最も重要である人財育成がようやく再開する。研修生を育てることで職員自らが育つこともようやく再開することには大きな期待を寄せたい。

法人設立20年を迎える理事長として、改革の時と考え、恐れず挑戦し続けていく所存である。

理事長　高柳友子

２．取組事項

２－１．介助犬育成事業

介助犬、Dog Intervention、With You プロジェクトへの取り組み

（１）肢体不自由者に対する介助犬貸与の取組み

① リハビリテーション専門職と連携を図り、介助犬希望者 1～2 名（うち新規１名）に対し介助犬貸与を目指す。

② 介助犬使用者16 名に対し、継続指導を行う。

（２）ＡＤＩの基準に則した検討

ＤＩ活動等について、ＡＤＩ基準に合致する可能性のある項目について仕組み作りの構築を目指す。

（３）公益的活動

① Dog Intervention への取り組み

イ）子ども支援センターつなっぐの職員に対し、付添犬ハンドラー養成を行う。

ロ）勤務犬（DI 犬）貸与先の聖マリアンナ医科大学に対して継続指導を行う。

ハ）楓の丘こどもと女性のクリニックへの DI 犬貸与継続の検討を行う。

ニ）聖マリアンナ医科大学病院、野のすみれクリニック、千葉リハビリテーションセンター、児童相談所一時保護所（名古屋市、川崎市）、にて DI 活動を実施する。

ホ）子ども支援センターつなっぐからの付添犬派遣要請に応じる。

② With You プロジェクト

イ）４組の障害児・者等のいる家庭に対して、生活しやすくニーズに合わせたキャリアチェンジ犬の譲渡を目指す。

ロ）待機家族が希望する個別ニーズに応えられる体制の強化を図る。

（４）犬の飼育及び訓練

イ）16 頭（内、新規訓練犬 13 頭）の訓練犬に対し、介助犬または DI 犬としての評価及び訓練を実施する。

ロ）パピーに対する訓練及びパピーホームボランティアに対して預かり訓練、訪問指導を実施する。

（５） 繁殖・犬導入

イ）3 回の交配、2 回の出産を行い、少なくとも 12 頭のパピー確保を目指す。

ロ）7 頭の繁殖犬（雄 3 頭、雌 4 頭）を確保することを目指す（うち新規雌 1 頭）。

ハ）自家繁殖以外から 3～5 頭のパピー導入を目指す。

ニ）海外の育成団体からも含め、自家繁殖以外から 2 頭の候補犬導入を目指す。

ホ）岐阜大学附属動物病院の協力のもと、内視鏡による人工授精を実施する。

ヘ）岐阜大学の協力のもと、凍結精液を作成する。

ト）凍結精液の導入計画を検討する。

２－２．相談事業

肢体不自由者やその他相談者への対応、犬を介した支援の検討または専門機関を紹介するなどの情報提供

（１） 介助犬希望者

① 介助犬に関心のある障害者を対象に対面、またはオンラインにて相談会を１回以上実施する。

② 介助犬希望者宅への訪問相談・調査を実施する。

③ 介助犬希望者・待機者を対象に体験入所等を実施する。

（２）DI を希望する専門職・専門機関からの相談に応じる。

（３）With You プロジェクト希望者を対象にしたイベントを実施する。

２－３．普及啓発・広報活動

介助犬・身体障害者補助犬法の認知度向上および寄付収入増加を目的とした、普及啓発・広報活動の展開

介助犬希望者・個人支援者・支援団体企業、マスメディア等、対象者毎への適切な情報提供を行う為の内容・形態、媒体の最適化

（１） 普及啓発イベント・講演会の開催

① 『介助犬フェスタ 2024』を 5 月 18 日（土）新型コロナウィルス感染拡大前と同様に、愛・地球博記念公園において『感謝の集い』と同日開催で計画。

② 啓発活動の継続実施

イ）訓練センターでの一般見学会を 10～12 回開催する。

ロ）訓練センターにおける、団体見学者の視察受け入れを行う。

ハ）イベント／講演会による啓発

社会情勢に応じた対面型とオンライン型のイベント実施を継続。特にオンライン型イベントを積極的に活用、全国配信を検討する。

イ）肢体不自由者への啓発

福祉機器展への参加による啓発活動の実施について検討を行う。

・バリアフリー2024　：４月 17 日（水）～19 日（金）インテックス大阪

・国際福祉機器展 2024　：　10 月 2 日(水)～10 月 4 日(金)　東京ビッグサイト

ロ）　「はたらくワンワンランド」での啓発

「ガンバレ！介助犬！JA 共済はたらくワンワンランド」への参加。

ハ）企業連携企画による啓発

・菅野智之投手(介助犬サポート大使)および読売巨人軍とのタイアップによる継続的な啓発活動の実施を行う。

・他企業・団体とのタイアップによる啓発活動の拡大を目指す。

（２） 講師派遣

過去に依頼のあった大学、専門学校等への役職員の派遣を積極的に進める。

（過去実績大学例）
愛知医科大学・藤田医科大学・日本福祉大学・朝日大学・淑徳大学・帝京科学大学・大阪保健医療大学・名古屋外国語大学・山梨学院大学・神奈川県立保健福祉大学・横浜市立大学・ハワイ大学・ヤマザキ動物看護大学等

（３） 普及啓発募金活動

本部およびセンター近郊で地域に根付いた啓発を行うための募金活動を実施する。

（４）マスコミ対応

新聞やテレビ番組などのメディアに対し映像・写真素材の提供を行う他、積極的にメディア露出できるようプレスリリースを行う。各種メディア掲載実績をホームページ上に公開する。

（５） 会報誌・ホームページ、その他制作物を活用した広報展開

① 魅力ある会報紙面・ホームページの更新を行い、支援者維持・獲得へ繋げる。
② ホームページの到達するまでのプロセスに Ad Glants（アドグランツ）を利用し、ホームページ訪問者数アップを目指す。
③ 更新した CSR 冊子を利用し、企業への訪問・アプローチを強化する。
④ 新規募金箱の制作に伴い、募金箱設置場所の拡大に努める。

（６）SNS の活用

X（旧 Twitter） / Facebook / Instagram / YouTube / note の各特性を活かした情報を発信し、支援者とのコミュニケーションを図り新たな支援者獲得を目指す。また SNS 広告媒体を活用した啓発についても検討する。

（７） リハビリテーション関連学会、獣医療関連学会へのブース出展等

リハ専門職等の介助犬への理解を深めるため、関連学会での発表およびブース出展、デモンストレーション等の機会を得る。

【参加予定学会一覧】

学会名	日程	開催地
第 24 回日本外科学会定期学術集会	2024 年 4 月 18 日(木)～20 日(土)	Aichi Sky Expo（愛知県）
第 15 回日本プライマリーケア連合学会学術大会	2024 年 6 月 7 日(金) ～9 日(日)	アクトシティ浜松（静岡県）
第 61 回日本リハビリテーション医学会	2024 年 6 月 13 日(木)～16 日(日)	セルリアンタワー東急ホテル、渋谷ヒカリエ ほか（東京都）
第 26 回日本臨床獣医学フォーラム	2024 年 9 月 21 日(土)～22 日(日)	ホテルニューオータニ（東京）
第 59 回日本脊髄障害医学会	2024 年 11 月 7 日(木)～8 日(金)	万国津梁館（沖縄県）
第 16 回日本身体障害者補助犬学会	2024 年 11 月 30 日(土)～12 月 1 日(日)予定	四条畷学園大学（大阪府）

（８） 年１回恒例のボランティア向け交流会等を実施する。

２－４.調査研究

障害者が介助犬等との生活をより円滑に送るための研究調査

（１）各学会への参加、演題登録
第 16 回日本身体障害者補助犬学会等への参加、学会団体会員として一般演題発表等を行う。

（２） リハ専門職等との補助具の開発

２－５.関係団体協力

良質な介助犬を育成するため、関係団体と訓練犬確保、繁殖情報の交換や繁殖協力関係の強化を図る。その他犬の活躍の場となる関係団体からの協力要請に応じる。

（１）補助犬育成団体との連携
① 日本盲導犬協会、北海道盲導犬協会、関西盲導犬協会、九州盲導犬協会、東日本盲導犬協会等との繁殖、キャリアチェンジ犬の導入、研修先としての団体間の関係継続に努める。
② 日本身体障害者補助犬学会へ団体会員として加盟する。

（２）諸外国の補助犬団体との連携強化
① ADI (Assistance Dogs International) 各種委員会への参加検討
② IBC (International Breeding Cooperative) /IWDR(International Working Dog Registry)への加盟
③ 国際活動の強化

（３）医療・福祉・行政等との連携強化

２－６.補助・助成申請（令和６年度）

【決定】

イ）事業名：児童相談所や障がい児者の家庭等への犬の介入を通した QOL 向上支援
・全国生活協同組合連合会：250 万円
・教職員共済生活協同組合：200 万円
・全国労働者共済生活協同組合連合会：100 万円
ロ）事業名：介助犬育成事業に携わる人材育成
・シンシア基金：50 万円

【申請予定】

・中部ウォーカソン
・愛知県内における介助犬啓発事業（補助金収入(公)）
・長久手市ふるさと応援活動支援事業（補助金収入(公)）

２－７.管理・運営

（１） 理事会・評議員会

定例の理事会および評議員会を開催。

（２） ファンドレイジング

安定した事業運営基盤の確立に向け、賛助会員数の継続、増加および寄付収入施策の検討・実施および収益事業の充実を図る。

① 会費

イ）法人会員および法人支援者へのアプローチおよび、継続的なご支援および新規支援の獲得を目指す。

ロ）個人・法人会員に対する、会報やメールでのニュースレター配信等の継続および、協会と会員とのコミュニケーションの充実を図る為の継続的なご支援を頂けるような活動する。

ハ）口座振替やクレジットカード等、会費納入の手軽さを更に推進するなど、会員の増加、賛助会員の新規入会促進施策を検討、実施する。

② 収益事業

イ）売り上げ上昇に寄与したものの分析を行い、当該グッズの再作成等の検討・実施を行い、販促活動を活性化する。

ロ）イ）を踏まえ、新たなグッズの企画を行うなど、作成および販売計画を練り、実施に向けて活動する。

③ 寄付

イ）昨年、新たに作成した寄付付き自動販売機チラシについて、チラシの拡散および自動販売機導入促進方法について検討し、積極的にアプローチしていく。

ロ）新聞や雑誌等の有料広告を吟味し、コストパフォーマンスの高いものを利用することにより、啓発活動を強化し寄付につなげていく。

ハ）遺贈寄付の確保に向け、ロ）の広告掲載のほか、信託銀行等の中間ユーザーへの啓発活動等を積極的に行う。

ニ）募金箱の設置場所の増加施策の検討・実施を行う。

（３） 年間行事

『感謝の集い～認定報告会～』を 5 月 18 日（土）に『介助犬フェスタ 2024』内で実施する。

『使用者の集い』を 10 月に訓練センターにて実施する。

『慰霊祭』を 10 月に訓練センターにて実施する。

『協会設立 30 周・法人設立 20 年記念式典』を令和 7 年 3 月 14 日（金）に JA 共済ビル カンファレンスホールにて開催する。

（４）施設保守・営繕・環境整備

① 介助犬総合訓練センターの敷地・建物・備品維持保全にかかる新たな改修計画を策定し数か年かけて計画的に実施する。
② 災害時の安全な避難経路および避難場所の確保について、旧ドッグランの活用を含めて最終決定を行い整備する。
③ 本部事務所について、職員の健康面を含めた働きやすさをより高めるため、また災害時の犬の避難を考慮し、移転を含めた環境整備計画を検討する。
④ 保有車両について、経過年数や走行距離に基づいて計画的な購入や保守を検討する。

（５） 人的資源・経営資源の有効活用

人的資源・経営資源を有効に活用するための業務の見直しを行い、業務効率向上のための DX（Digital Transformation）化施策の遂行および災害時の対応について検討する。

① 経理管理システムのクラウド化を社会福祉充実計画に沿って実施完了する。
② 顧客管理システムおよび犬管理システム等、DX 化に向け、数か年計画を策定し、導入に向けた検討を開始する。
③ 自然災害等を含めた災害時の為のＢＣＰ計画（Business Continuity Plan・業務継続計画）について専門家の助言を基に策定し、非常時においても効率的に業務を継続できるように備える。

（６） 福利厚生

① 職員の労災予防および健康管理施策として、健康増進プログラムを策定し、導入する。
② 福利厚生プログラムとして継続してソウウェルクラブに加入し、職員の余暇活動等の活性化を促し、生きがいの醸成とプライベートの充実を図って頂く。
③ 職員一人一人が自分の人生のプランニングについて考える機会を提供する。

２－８.人材育成・研修

（１）目標設定・人事評価システム

４年目となる目標設定システムの改変を行い、査定制度として確立を目指す。適正な昇給を行うことで、職員の働き甲斐を醸成する。

（２）キャリアパス制度の導入

マネジメントコースおよびプロフェッショナルコースを配したキャリアパスの導入を行う。導入初年度においては、職員毎にコースを選択させ、自身の持つスキルおよび強みを意識する一年とする。

（３） 訓練技術向上

飼育管理担当者、パピー担当者等のすべての訓練部職員が OJT により犬のハンドリング技術の向上を目指す。また、目指すゴールの明確化、訓練犬の評価方法の見直しを図り、訓練技術向上に努める。

（４）広報活動の技術向上

広報を行うための MC 技術の向上を図ると共に、進化する当会の活動について事業内容の紹介のバージョンアップを図る。また訓練の見学の機会を与え、目指すゴールの共有化を図り、より体験に基づいた啓発活動ができるよう支援する。

（５） 研修

① リハ関連、犬関連に関するセミナー等の受講を推奨する。
② 広報活動に必要な技術向上のため、セミナー等の受講を推奨する。
③ 法令に関するもの、企業コンプライアンスに関わるセミナー等の受講を推奨する。
④ 企業内 DX 化に必要な知識の習得のため、関連するセミナーの受講を推奨する。
⑤ 社会福祉法人の会計に関する知識の習得のため、関連するセミナーの受講を推奨する。
⑥ その他、①から⑤までの研修に加え、資格取得・自己啓発に関する研修について、職員毎に計画的に研修を受講するよう働きかける。

２－９．研修生制度

研修生制度（有給）を刷新して再開。採用を目的とし、令和 6 年 4 月から 9 月末までの 6 か月間を研修期間と置き、介助犬訓練育成を主軸とした当会の活動に関わる人材を養成する。令和 6 年度 3 名採用予定。